

2011. 6. 27

プレスリリース

「内外の化繊工業の動向」

2011年 第1四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その
「概要」をお届けします。
ご高覧下さるよう、よろしく願い申し上げます。

日本化学繊維協会

(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

概 要 (2011 年第 1 四半期)

2011 年 1-3 月のわが国の景気は、海外経済の改善、各種政策効果により、高い失業率などの課題を抱えているものの着実に回復していた。しかし、東日本大震災の発生によるサプライチェーンの寸断など生産活動は一転、弱い動きとなった。

化繊景況も一般景気のリcoveryにともない自動車関連需要を中心に着実に回復地合いにあった。しかし、衣料品を中心に輸入品の増加が目立ち、国産品の回復は力強さを欠いている。

国 内

1) 国内景気は、生産の回復による企業収益の改善、設備投資の回復などにより、高い失業率、原油価格の動向、為替といった課題を抱えているものの外需主導により着実に持ち直しつつあった。3 月 11 日に発生した東日本大震災により、サプライチェーンの寸断、電力供給制限など、生産活動は停滞、当面は弱い動きが続くと見られる。

繊維景況も回復地合いにあったが、素材また用途によって勢いが異なった。衣料用は、百貨店における衣料品販売 10 年 10-12 月期から前年同月比で底打ちが見られるなど明るさを戻しつつあったが、3 月は震災の影響により前年対比大きく減少した。インテリア用は、カーテン、カーペット関連はマンションの発売戸数（首都圏；前年比 5.9%増、近畿圏；2.3%減）、新設住宅着工戸数の持ち直しなど明るい材料が見られたが、製品輸入に押され力強さに欠けた。自動車関連では、タイヤコードは好調な補修・輸出用に支えられ堅調、カーシート、シートベルト・エアバッグはエコカー補助金終了により勢いを欠いた。建築関連は、民間投資は持ち直しているものの、公共投資は引き続き低調であった。

今回の回復を牽引してきた自動車向け需要が、震災により自動車生産を一時ストップするなどの被害を被っており、これが繊維景況に今後どう影響を及ぼすか懸念されるところである。

2) 生産指数は、繊維工業全体では前年比 2.8%増、前期比 3.3%増、化繊は 2.8%増、3.3%増。紡績は 5.3%増 6.9%増と、いずれも前年比、前期比ともに増加するなど、持ち直しが見られた。また在庫指数（期末）は、繊維工業が前期比 8.1%減、化繊 6.6%減、紡績 7.0%減といずれも減少している。（生産、在庫とも指数ベースの比較）

3) 繊維品輸出は、ドルベースで 22.7 億ドル・前年比 15.2%増と 5 四半期続けて前年比増加。また円ベースでも 1,868 億円・4.6%増。形態別（ドルベース）では、繊維原料（前

年比 17.7%増)、糸類 (19.3%増)、織物類 (17.7%増)、二次製品他 (10.9%増) と全ての段階で 2 桁増となった。仕向地別では、全体の 36%を占める中国は 8.1 億ドル・18.9%増。アセアン向けは、タイ (3.8%増)・インドネシア (8.8%増)・マレーシア (10.7%増)・ベトナム (26.2%増) 向け好調により 4.1 億ドル・20.2%増と大きく増加。それ以外でも欧州 (25.0%増)、香港 (8.5%増)、米国 (7.6%増)、韓国 (8.3%増) が増加している。

4) 繊維品輸入は、ドルベースで 94.5 億ドル、前年比 26.4%増と 4 四半期続けて前年比増加した。また円ベースも 7,775 億円・14.7%増。形態別 (ドルベース) では、繊維原料は 2.2 億ドル・75.3%増、糸類は 39.3 億ドル・67.8%増、織物は 3.7 億ドル・48.3%増、二次製品は 84.7 億ドル・23.3%増といずれも大きく増加している。仕出地別では、全体の 73%を占める中国が 24.6%増の 56.7 億ドル、アセアンもベトナム (40.7%増)、インドネシア (61.6%増)、タイ (30.9%増) などの増加により 43.1%増の 9.2 億ドルと増加。その他でも、イタリア 2.7 億ドル (15.0%増)、韓国 1.9 億ドル (21.9%増)、米国 1.7 億ドル (36.5%増) が増加している。

繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	10.1-3	10.10-12	11.1-3	前年比 (%)	前期比 (%)
輸出	千ドル	1,970,271	2,489,797	2,270,263	15.2	-8.8
計	百万円	178,598	205,706	186,781	4.6	-9.2
繊維原料	千ドル	343,865	385,551	404,817	17.7	5.0
糸類	〃	264,807	314,062	315,937	19.3	0.6
織物類	〃	580,975	849,426	683,773	17.7	-19.5
二次製品他	〃	780,635	940,757	865,736	10.9	-8.0
輸入	千ドル	7,474,175	9,756,268	9,447,565	26.4	-3.2
計	百万円	677,643	805,494	777,470	14.7	-3.5
繊維原料	千ドル	125,700	158,505	220,376	75.3	39.0
糸類	〃	234,120	331,504	392,834	67.8	18.5
織物類	〃	246,661	347,363	365,843	48.3	5.3
二次製品他	〃	6,867,863	8,918,897	8,468,512	23.3	-5.0
(うち衣類)	〃	(5,797,636)	(7,581,667)	(7,219,842)	24.5	-4.8
輸出レート	円/ドル	90.6	82.6	82.3	-9.2	-0.4
輸入レート	円/ドル	90.7	82.6	82.3	-9.2	-0.3

(出所) 財務省

5) 化繊生産は 25.5 万トン、前年比 11.3%、前期比 2.9%増。うちセルロース繊維は 4.4 万トン・前年比 4.0%増、前期比 6.5%増。合繊は 21.1 万トン・前年比 12.9%増、前期比 2.2%増となり、全体、セルロース、合繊いずれも 5 四半期連続で前年比増加した。期末在庫は、合繊が前期比では減少した以外は目立った動きはなく、8.6 万トン・前年比 0.2%増、前期比 6.3%減であった。

化繊輸出（繊維原料～二次製品）は16.0万トン・前年比5.8%増。レーヨンSは主力の米国向けが円高により減少したが、台湾向け増加により22.2%増(3,994トン)。ナイロンF5.7%減、ポリエステルF8.4%減、ポリエステルS14.1%増、アクリルSは1.9%増となった。織物（面積ベース）は6.9%増、ナイロンF織物は24.8%増と堅調、ポリエステルF織物は0.4%減と微減、ポリエステルS織物9.7%増。また化繊不織布（重量ベース）は長繊維が18.0%減、短繊維は9.5%増であった。

化繊輸入（繊維原料～二次製品）は30.6万トン・16.2%増。繊維原料（1.5万トン・10.5%増）、糸類（5.3万トン・22.6%増）、織物（面積ベース、1.61億㎡・29.9%増）、二次製品は21.2万トン・15.0%増、うち衣類は10.7万トン・19.3%増と、いずれも2桁の増加となった。

化学繊維の主要指標

項目	単位	10.1-3	10.10-12	11.1-3	前年比(%)	前期比(%)
化繊生産	千トン	229.6	248.1	255.4	11.3	2.9
セルロース	〃	42.3	41.3	44.0	4.0	6.5
合 織	〃	187.2	206.8	211.4	12.9	2.2
化繊在庫	〃	85.5	91.5	85.7	0.2	-6.3
セルロース	〃	15.1	15.1	15.2	0.8	0.4
合 織	〃	70.5	76.4	70.6	0.1	-7.6
化繊輸出	千トン	151.5	163.9	160.4	5.8	-2.2
	100万ドル	1,220.6	1,533.2	1,408.1	15.4	-8.2
	億円	1,106.4	1,266.7	1,158.5	4.7	-8.5
繊維原料	千トン	80.4	81.9	84.3	4.8	2.9
糸 類	〃	27.6	28.1	30.1	9.0	6.9
織物類	百万㎡	130.4	166.2	139.4	6.9	-16.1
二次製品	千トン	20.7	24.3	21.3	2.9	-12.4
化繊輸入	千トン	263.1	377.0	305.7	16.2	-18.9
	100万ドル	2,873.5	4,861.7	3,835.3	33.5	-21.1
	億円	2,603.8	4,027.4	3,156.4	21.2	-21.6
繊維原料	千トン	13.5	14.8	14.9	10.5	1.2
糸 類	〃	43.4	49.7	53.2	22.6	7.0
織物類	百万㎡	124.1	141.3	161.1	29.9	14.0
二次製品他	千トン	184.5	288.1	212.1	15.0	-26.4
(うち衣類)	〃	(89.6)	(166.0)	(106.8)	19.3	-35.7

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 1. 在庫は生産者在庫で各期末 2. 化繊輸出入の計には化繊くずを含む

6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

ポリエステルF：生産は45,355トン・前年比0.3%増と微増。織物生産は9,947万㎡・17.8%増。用途別では、衣料用は全体では厳しい中、主力の婦人アウターでの底打ち感、高密度織物は国内外ともアウトドアブームにより堅調を維持、裏地は高密度に引っ張られ一部でスペース不足が生じるなど明るさが見られた。先行きについては震災による消費マインドの低下が懸念されている。産資用では、タイヤコードは市販、輸出向け好調により総じて堅調、カーシート、シートベルト、ゴム資材な

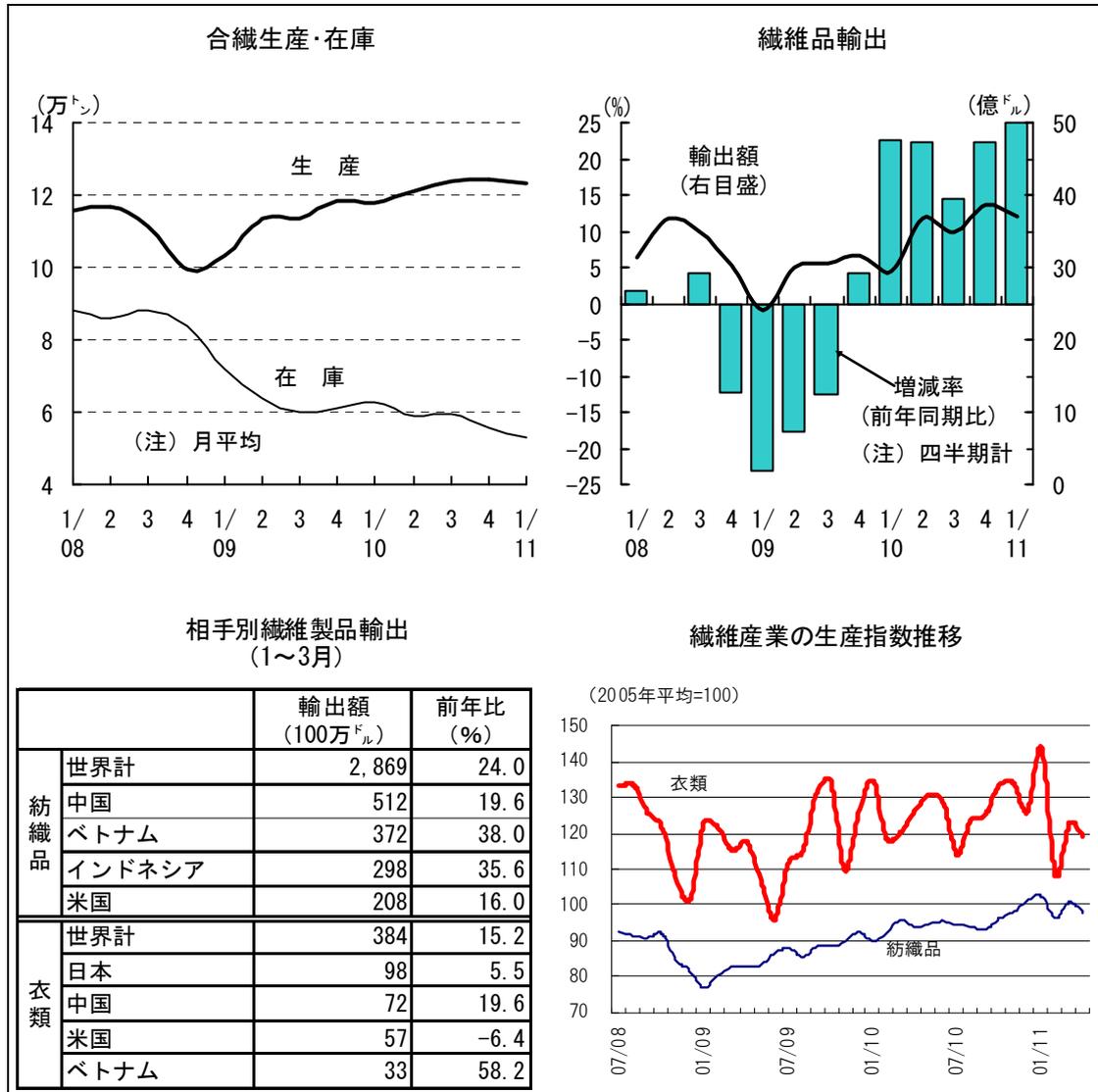
どはエコカー補助金終了により動きが鈍かったところに、震災による自工メーカーの操業停止により先行き懸念される。網・ロープ関連は盛り上がりを欠いている。フィラメント輸出は6,681トﾝ・前年比8.4%減、タイは増加したが、中国、米国は減少した。一方輸入は30,388トﾝ・20.9%増。台湾14,869トﾝ・30.1%増、タイ4,200トﾝ・40.5%増、インドネシア3,690トﾝ・20.5%増となっている。

ポリエステルS：生産は39,573トﾝ、前年比5.4%減。用途別では、紡績用は綿混、ウール混とも学販向けで底堅い動きが見られた。純糸はインテリア関連が低調、資材も引き続き低迷している。製綿用では、就職・進学シーズンに加え、輸入原綿価格の上昇により堅調に推移。原料高による製品価格への転嫁は難しい模様。不織布用は衛材、生活資材ともに年末需要の反動で弱い動きであった。そのような中、震災需要によりウェットティッシュの3月は大きく伸びた。車輛用は、エコカー補助金廃止により低迷。ステープル輸出は11,145トﾝ・前年比14.1%増。タイ、中国・インドネシア等主力仕向け地は増加した。輸入は、8,242トﾝ・22.7%増。中国・韓国、タイから増えている。

ナイロンF：生産は23,768トﾝ、前年比9.8%増。織物生産は3,191万㎡・19.0%増。衣料用は、主力のレグ関連は、カラータイツ、レギンス、トレンカと推移してきたが、ここに来てトレンカに次ぐ商品が出ないため頭打ち。ハイテンションニットは、国内および中国内需向けともに堅調、ポリエステルとの交編など素材の多様化が見られる。アウターでは、高密度織物が引き続き堅調に推移。スポーツ関連も回復している。非衣料用は、自動車関連では、タイヤコードではキャップフライ向け、バイアスタイヤ向けともに堅調。エアバック、車輛用マットはエコカー補助金終了により盛り上りに欠けた。フィラメント輸出は、5,826トﾝ・5.7%減。産資順調、衣料不振。輸入は7,122トﾝ・11.9%増。台湾（1,475トﾝ、16.8%増）、中国（1,162トﾝ・112%増）、韓国、米国、ドイツとなっている。

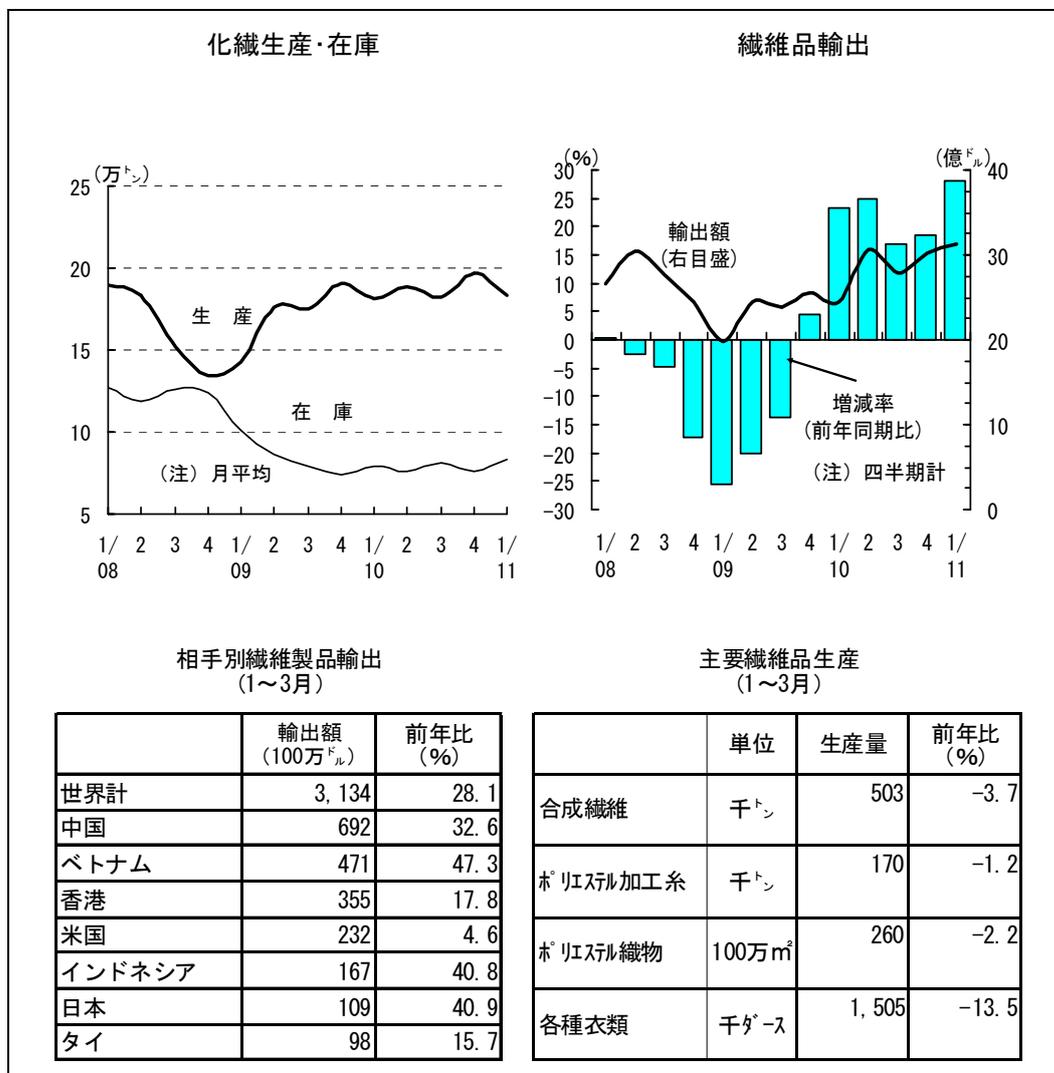
アクリルS：生産は36,079トﾝ、前年比13.1%増。紡績糸生産は2,606トﾝ・1.4%減。内需は、衣料用は3月（一部2月）からシーシーズンイン。靴下、セーター向けは堅調なスタート、肌着も昨年ほどの勢いは見られないものの安定している。毛布、カーペット、カーテン等は引き続き低迷している。ステープル輸出は、主力の中国向けが17,774トﾝ・7.0%増と増加した。これまでは欧米への再輸出から主体であったが、所得の向上により中国国内向けとして消化される量が増えている。この他ではインドネシア4,714トﾝ・1.4%減、米国2,472トﾝ・88.9%増、アフリカ諸国5,333トﾝ・17.1%増であった。

7) 韓国



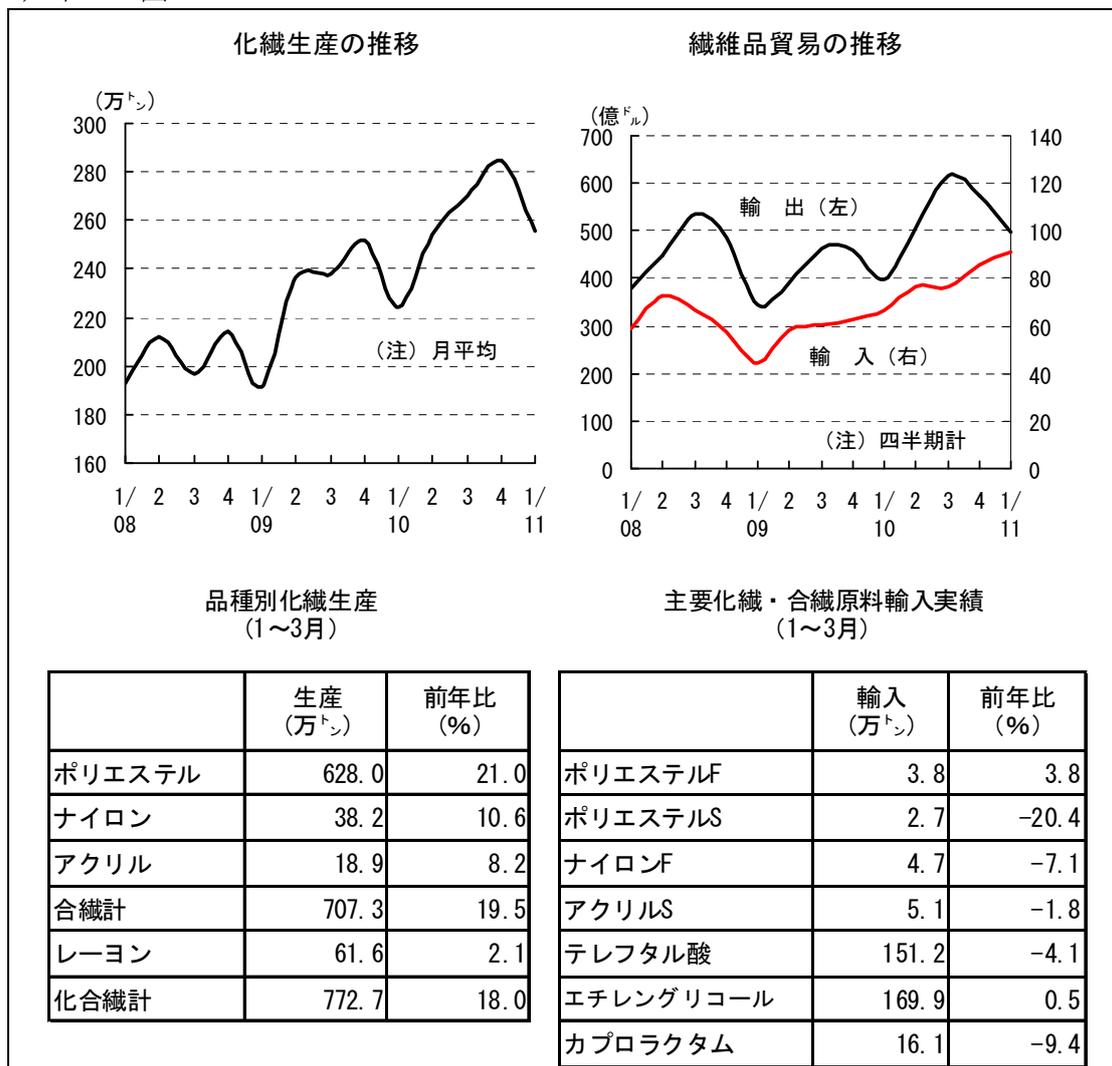
- ◆合繊生産、繊維品輸出とも回復傾向が続く。
- ◆合繊生産（1-3月、以下同様）は前年同期比4.2%増の36.9万トンと5期連続の増産。一方で、在庫調整が進んでおり、期末在庫は15.4%減の5.2万トンとなった。
- ◆繊維品輸出は前年同期比25.0%増の36.9億ドル、5期連続で前年実績を上回った。相手別にみると、ベトナム、インドネシア等のアセアン向けが好調に推移している。中国向けも紡織品、衣類とも2割近い伸びとなった。
- ◆直近（2011年4月）の紡織品の生産指数をみると、紡織品は前年同月比4.4%増と好調な輸出もあり回復傾向が続いているが、衣類は5.7%減の減少となった。

8) 台湾



- ◆合繊生産は横ばいも、繊維品輸出は大幅増となった。
- ◆化合繊生産 (1-3月、以下同様) は前年同期比 1.3%増の 55.1 万トン、6期連続の増産となった。品種別にみると、ナイロンFは 4.2%増の 8.6 万トン、ポリエステルFは横ばいの 26.5 万トン、同Sは 10.7%増の 15.0 万トン、アクリルSは 7.6%減の 2.7 万トンとなった。
- ◆繊維品輸出は前年同期比 28.1%増の 31.3 億ドル、5期連続で前年実績を上回る。主力の中国向けを中心に、ベトナム、インドネシアなどのアセアン向け、日本向けが軒並み大幅増となった。中国向けについては、多くの品目が 11年1月より ECFA に基づき関税減免の対象となったことも拡大の要因とみられる。
- ◆主要繊維品の生産は軒並み前年実績割れ。ポリエステル加工糸、ポリエステル織物、衣類生産はそれぞれ 1.2%減、2.2%減、13.5%減となった。

9) 中 国



- ◆化繊生産、繊維品輸出、内需とも順調に拡大している。
- ◆繊維品輸出（1-3月、以下同様）は前年同期比 25.2%増の 497 億ドル、4期連続で前年実績を上回った。一方、繊維品輸入は、綿花/原油価格の高騰の影響などもあり 36.8%増の 91 億ドルとなった。
- ◆化繊生産は 18.0%増の 773 万トと続伸、品種別には主力のポリエステルは 21.0%増の 628 万トとなった。ナイロンは 10.6%増の 38 万ト、アクリルは 8.2%増の 19 万トとなった。
- ◆主要化繊および合繊原料の輸入をみると、概ね減少傾向。ポリエステルは、Fは 3.8%増であったが、Sは 20.4%の大幅減となった。合繊原料輸入は、テレフタル酸は、国内メーカーの稼働開始もあり 4.1%減、エチレングリコールは 0.5%増、カプロラクタムは 9.4%減となった。

相手別繊維製品輸出 (1～3月)			繊維業界の主要指標 (1～3月)			
	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)		単位	指標	前年比 (%)
世界計	499	23.7	企業数	万社	3.5	-
アジア	220	26.5	赤字企業数	万社	0.5	-6.3
香港	34	9.1	主要業務収入	億元	10,775	32.6
日本	60	25.1	利潤総額	億元	554	53.6
韓国	15	39.8	工業総生産額	億元	11,095	31.6
アセアン	39	38.3	就業人数	万人	966	7.2
EU	106	20.8	繊維産業実際投資	億元	549	30.9
米国	71	12.6	うち化繊産業	億元	129	109.0

全国主要大型小売店の販売額 (1～3月)				繊維関連物価指数 (2011年4月)	
	単位	数値	前年比 (%)		前年同月比 (%)
商品売上総額	億元	1,596	26.4	企業物価指数(出荷)・衣類	4.4
うち衣類	億元	424	26.6	小売価格指数・紡織品	5.5
婦人服	万点	2,449	5.6	消費者物価指数・衣類	1.4

- ◆2010年1-3月の相手別繊維製品輸出をみると、EU向け、米国向けはそれぞれ20.8%増、12.6%増となったが、全体の伸びを下回っている。一方で、韓国向け、アセアン向けが4割近い大幅増、日本向けも25.1%増と回復が顕著となった。
- ◆1-3月の繊維産業の業績、投資に関する主要指標をみると、好調な内需が続いていることもあり、主要業務収入は32.6%増、利潤は53.6%増と好調な収益状況となった。また、繊維産業の実際完成投資は30.9%増、化繊産業は2.1倍、市況上昇もあり、ポリエステルの新規投資が活発となっている。
- ◆繊維産業の衣料用内需は好調に推移している。1-3月の衣類売上(主要大型小売店)は前年同期比26.6%増となった。物価指数をみると、綿花/原料価格高騰によって、企業物価指数は上昇しているが、消費者物価指数は1.4%の上昇にとどまっている。

J C F A

合繊4品種需要実績

I. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2011年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	21,762	97.9	99.2
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	52,234	103.4	108.3
	計	73,996 (30,388)	101.7 (107.5)	105.5 (120.9)
輸出 (原糸、加工糸)		4,273	117.5	90.5
需要計		78,269	102.5	104.5
在庫		14,480	88.4	85.0

(注)国内需要の()内数値は輸入量

II. ポリエステルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2011年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む。)	5,873	99.3	92.1
	非紡績用 (加工品輸出用含む。)	31,182	91.7	92.4
	計	37,055 (8,242)	97.4 (95.5)	97.3 (122.7)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		9,120	118.6	105.3
需要計		46,175	101.0	98.8
在庫		19,606	94.4	94.6

(注)国内需要の()内数値は輸入量

III. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2011年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	10,313	94.5	117.1
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	16,429	100.4	99.0
	計	26,742 (7,122)	98.1 (109.2)	105.2 (111.9)
輸出 (原糸、加工糸)		3,838	124.4	97.8
需要計		30,580	100.7	104.2
在庫		10,078	100.3	104.7

(注)国内需要の()内数値は輸入量

IV. アクリルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2011年1～3月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	7,523	195.8	109.3
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	2,750	123.8	74.9
	計	10,273 (178)	169.4 (53.3)	97.3 (71.8)
輸出 (ステープル・トウ・トップ)		26,112	90.4	100.0
需要計		36,385	104.1	99.2
在庫		8,504	90.6	107.5

(注)国内需要の()内数値は輸入量